

2018年1月24日

## 経済レポート

## 中部圏のインバウンド消費(2017年10-12月期、2017年暦年)

～ 2017年中部圏の訪日外国人数、インバウンド消費額はともに過去最高を更新 ～

調査部 副主任研究員 杉本宗之

### 【要旨】

2017年に中部圏を訪れた外国人数は392万人と暦年として過去最高を更新した。前年に比べ伸び率は鈍化したものの、増加基調が続いている。

中部5県の中で訪日外国人数が最多の愛知県は255.4万人と初めて250万人を突破した。

中部5県の中で唯一三重県は訪日外国人数が前年割れしたが、均してみると増加傾向にある。

中部圏のインバウンド消費額は前年比+17.3%の2,390億円と推計され、暦年で過去最高を更新し、二桁台の伸びを維持している。

愛知県のインバウンド消費額は前年比+27.5%の1,649億円と増加が続き、静岡県は同+5.8%の476億円と伸び率は鈍化したが増加が続いている。

岐阜県は4年ぶり、三重県は3年ぶり、福井県は2年ぶりにインバウンド消費額は減少した。

中部圏の一人あたりインバウンド消費額(消費単価)は前年比+8.6%の6.1万円と推計され、4年ぶりに増加した。インバウンド消費単価は足下で持ち直しの動きがみられる。

中部圏を訪れる訪日外国人の平均泊数や中部圏内での周遊率は関西や関東に比べ水準が低い。インバウンド消費額の増大に向け、中部圏内での宿泊や周遊を促し、滞在期間を延ばしていくことが肝要である。

		2017年 10-12月期		2017年 暦年	
			(前年比)		(前年比)
中部	訪日外国人	94万人	+17.3%	392万人	+8.0%
	インバウンド消費額	678億円	+45.7%	2,390億円	+17.3%
	一人あたり消費額	7.2万円	+24.6%	6.1万円	+8.6%
全国	訪日外国人	749万人	+23.6%	2,869万人	+19.3%
	インバウンド消費額	1兆1,400億円	+27.8%	4兆4,161億円	+17.8%
	一人あたり消費額	15.2万円	+3.4%	15.4万円	1.3%

## 1. 2017年10-12月期の中部圏のインバウンド消費

政府統計<sup>1</sup>によると、2017年10-12月期の日本全国の訪日外国人数は前年比+23.6%の749万人と四半期ベースで過去最高を記録し、インバウンド消費額は同+27.8%の1兆1,400億円、一人あたり消費額は同+3.4%の15.2万円となった。訪日外国人数は高い伸びが続いており、インバウンド消費額の伸びも勢いを取り戻してきている。

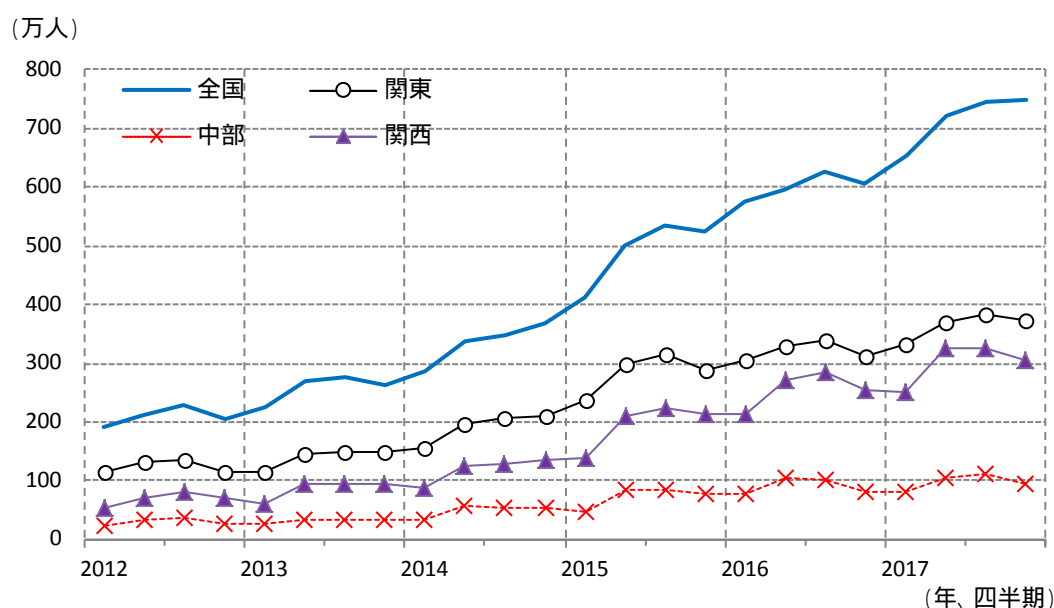
このような中、中部圏を訪れた訪日外国人は堅調に増加を続けており、インバウンド消費額も均してみると緩やかに増加している。本稿では、最近の中部圏のインバウンド消費について、当社（三菱UFJリサーチ&コンサルティング〔以下MURC〕）推計において地域単位にブレイクダウンした推計値<sup>2</sup>を元に足下のインバウンド消費の動向について概観する。

### （1） 訪日外国人数の動向

2017年10-12月期に中部圏を訪れた外国人数は94万人と推計され、増加が続いている。前年比は+17.0%と全国（同+23.6%）や関東（同+18.8%）、関西（同+20.3%）の伸び率を下回っているものの、前7-9月期に引き続き二桁の伸びとなり、10-12月期としては過去最高を記録した。

訪日外国人数を県別に見ると、愛知県は前年比+21.3%の60.0万人、静岡県は同+17.2%の31.5万人といずれも10-12月期としては過去最高を記録した。また、岐阜県は同+4.5%の17.2万人と10-12月期として過去最高を記録した15年の水準まで回復した。一方、三重県（同-22.3%）と福井県（同-23.8%）は二桁のマイナスとなった（図表2）。

図表 1. 訪日外国人数の動向



（出所）日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

<sup>1</sup> 日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」

<sup>2</sup> 地域毎の数字は、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの推計値。推計方法については、藤田・塚田・杉本（2015）の補論を参照。

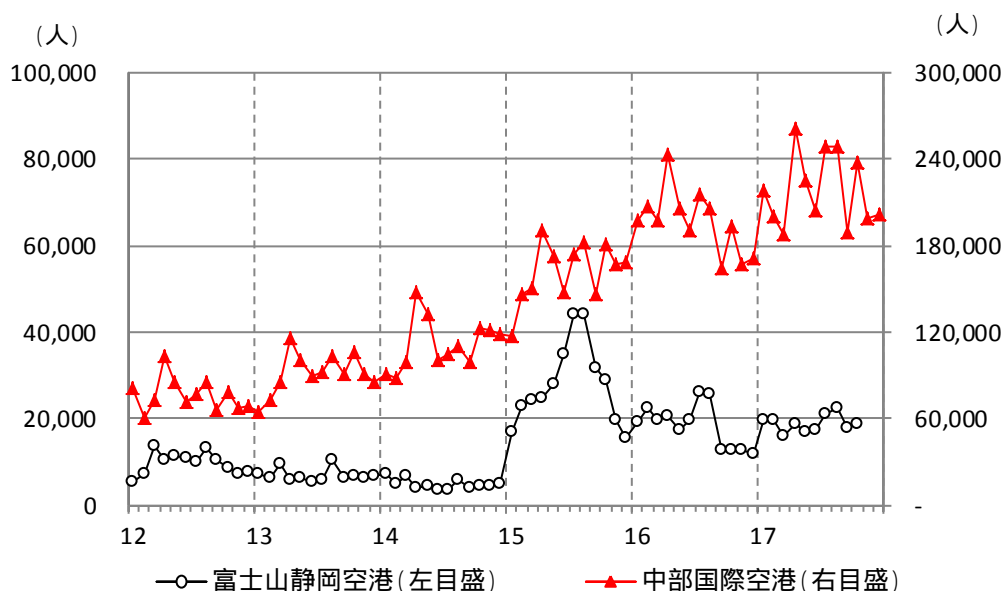
中部国際空港を利用する外国人数は、17年4月以降前年を上回っており、特に7月以降は二桁増（7月：前年比+15.5%、12月：同+18.2%）と増加の勢いが増している。また、富士山静岡空港は17年2～8月にかけて前年割れが続いていたが、9月（同+38.2%）、10月（同+47.7%）と2ヵ月連続で二桁増となっている。

図表 2. 訪日外国人数の動向（地区・県別）

(単位)	2016年		2017年							
	10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期	
	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)
愛知県	49.4	1.4	55.7	7.4	65.0	0.6	74.7	19.6	60.0	21.3
岐阜県	16.5	-4.6	15.8	5.7	25.3	8.9	13.1	-4.9	17.2	4.5
三重県	4.8	57.7	4.0	5.3	4.6	-14.4	5.0	25.7	3.7	-22.3
東海3県		2.4		6.9		1.8		15.7		14.4
静岡県	26.9	-8.8	28.1	-4.8	33.2	-5.6	41.8	8.2	31.5	17.2
福井県	1.0	23.4	1.7	45.1	1.0	2.9	1.2	6.1	0.7	-23.8
中部5県	81	3.0	82	4.4	104	0.4	112	11.3	94	17.0
富山県	6.0	-16.6	3.2	75.9	14.3	-5.9	4.5	7.1	8.2	36.3
石川県	11.1	-15.4	10.7	27.5	21.9	14.9	10.6	8.3	12.0	8.5
長野県	17.6	-7.5	25.5	40.5	23.9	13.5	12.5	13.7	18.7	6.7
滋賀県	3.9	-8.3	3.4	10.9	8.2	99.4	2.7	-28.5	3.7	-2.7
昇龍道9県		-2.1		13.5		5.7		10.0		15.0
関東地区	314	8.3	332	8.8	371	13.0	382	12.5	372	18.8
関西地区	253	18.0	252	17.4	327	20.0	324	13.9	304	20.3
全国	606	15.5	654	13.6	722	21.1	744	18.8	749	23.6

(注)東海3県、昇龍道9県の前年比は各県の延べ人数の単純合計値をもとに算出。

図表 3. 中部圏の主要空港における出入国外国人数



(注)中部国際空港の17年11,12月の値は中部国際空港(株)公表の速報値  
(出所)法務省「出入国管理統計」、中部国際空港(株)「利用実績」

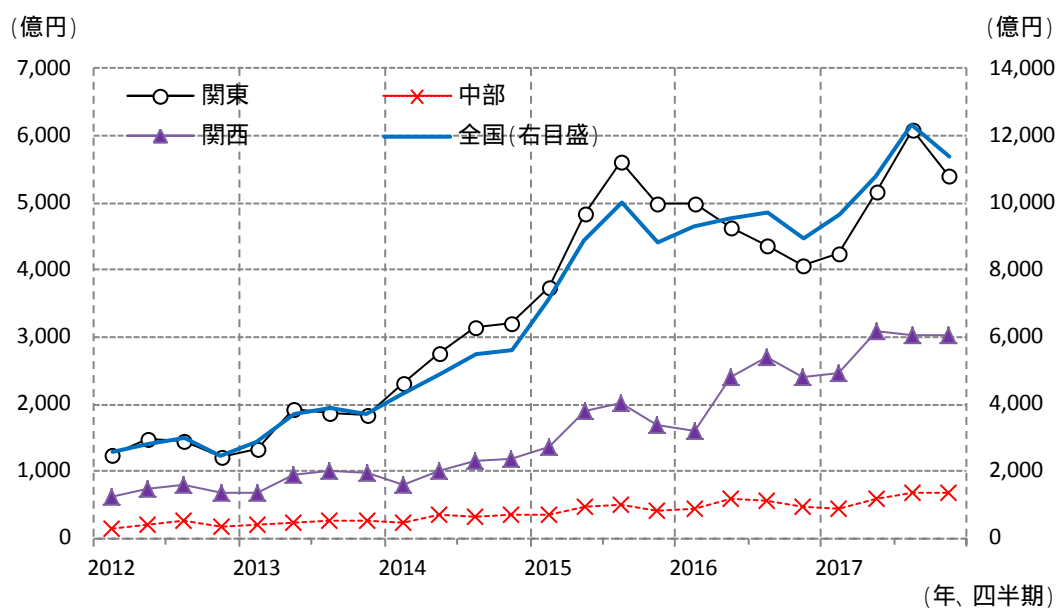
## (2) インバウンド消費額の動向

2017年10-12月期の全国のインバウンド消費額の伸び率は前年比で+27.8%と、5四半期連続で増加し、二桁増が続いている。このような中、中部圏のインバウンド消費額は同+45.7%と2四半期連続で二桁の伸びとなり、678億円と推計される。前期(17年7-9月期)に引き続き600億円を超えた。

県別に見ると、愛知県は前年比+64.5%の500.5億円と2013年10-12月期以来17四半期連続で増加し、四半期ベースで初めて500億円を突破した。静岡県は同+21.0%の118.8億円と2四半期連続で増加した。また、岐阜県は同+21.5%の44.6億円と3四半期ぶりに増加した。福井県は同+4.5%の3.2億円と3四半期ぶりに増加した。一方、三重県は同-52.5%の11.0億円とインバウンド消費額は前年同期から半減した(図表5)。

なお、中部国際空港の免税店売上高(図表6)について見ると、17年4月以降外国人旅客数の伸びとともに伸び率が上昇し、9~11月は前年比+30%台と大きな伸びを示した。もっともこの免税店売上高には日本人が購買した分も含んでいるが、同時期の日本人旅客数の伸び(9-11月期:同+1.6%)は外国人旅客数の伸びに比べて低いことを考えると、免税店売上高の大きな伸びは増加した外国人旅客による購買分が大きく寄与していると考えられる。

図表4. インバウンド消費額の動向

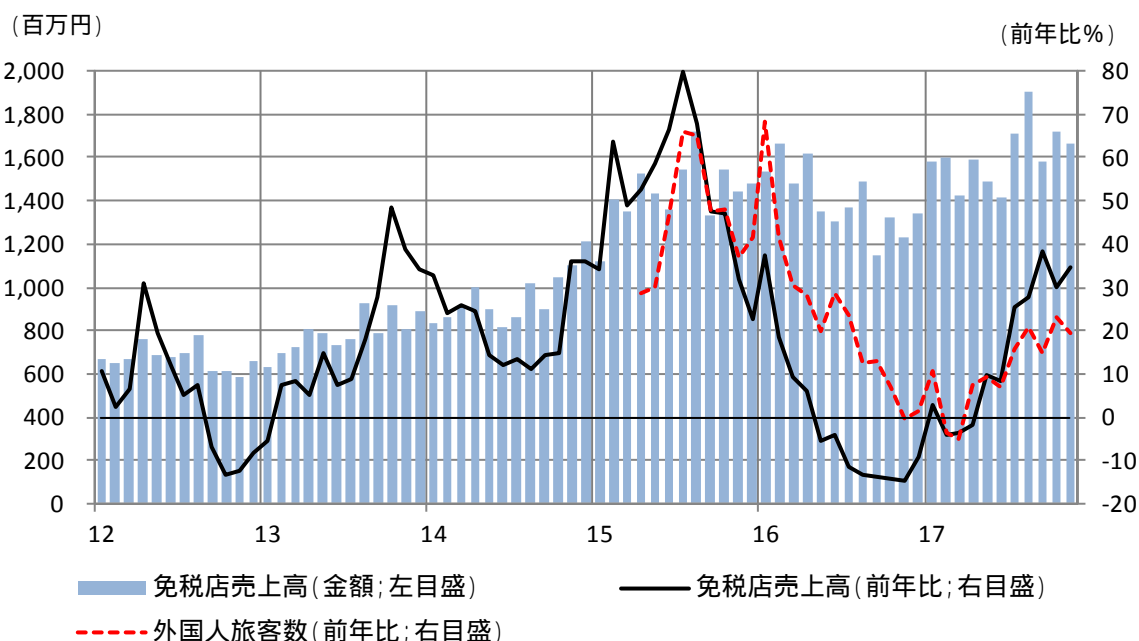


(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表 5. インバウンド消費額の動向（地区・県別）

(単位)	2016年		2017年							
	10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期	
	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)
愛知県	304.2	24.3	298.2	13.9	397.4	10.1	453.1	22.0	500.5	64.5
岐阜県	36.7	-5.8	47.8	4.9	42.8	-39.3	38.1	-15.4	44.6	21.5
三重県	23.2	138.0	7.3	-15.9	17.5	-25.9	32.9	116.9	11.0	-52.5
東海3県	364	24.1	353	11.8	458	0.6	524	21.4	556	52.8
静岡県	98.2	-3.6	77.8	-25.1	124.2	-2.8	154.9	27.9	118.8	21.0
福井県	3.1	-36.6	10.5	80.7	2.4	-67.2	7.3	-37.6	3.2	4.5
中部5県	465	16.3	442	3.7	584	-1.0	686	21.6	678	45.7
富山県	11.3	-14.9	6.0	-41.8	24.7	-2.3	14.4	-12.2	20.0	76.3
石川県	39.2	10.5	42.1	99.1	56.9	-4.6	43.6	5.8	34.5	-11.9
長野県	58.0	-17.3	255.5	18.3	49.0	-17.4	59.4	91.7	68.1	17.4
滋賀県	14.1	54.2	4.2	-55.0	14.3	57.1	12.0	93.1	7.9	-43.9
昇龍道9県	588	11.3	750	9.8	729	-1.9	816	23.7	809	37.5
関東地区	4,075	-18.6	4,242	-15.1	5,169	11.5	6,095	39.2	5,396	32.4
関西地区	2,410	43.1	2,454	52.1	3,082	27.6	3,024	11.9	3,024	25.4
全国	8,922	1.3	9,679	4.0	10,776	13.0	12,306	26.7	11,400	27.8

図表 6. 中部国際空港における免税店売上高



(注)2014年3月以前の国際線旅客数の内訳(外国人)は非公表  
 (出所)中部国際空港(株)「中部国際空港実績一覧」

## (3) 一人あたりインバウンド消費額の動向

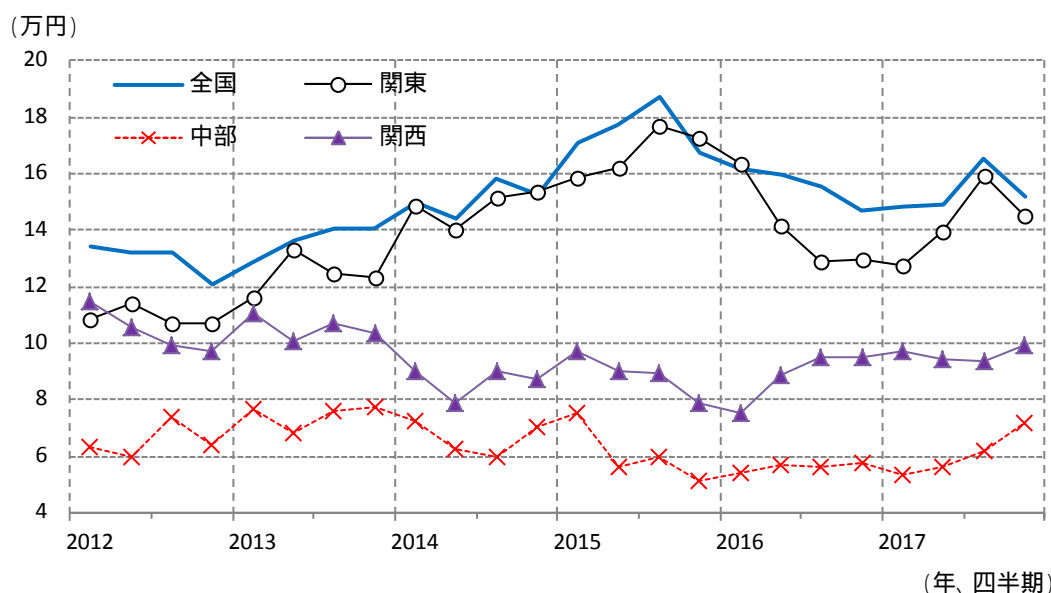
インバウンド消費額を訪日外国人数で除した一人あたりインバウンド消費額（消費単価）<sup>3</sup>について見ると、中部圏は前年比+24.6%の7.2万円と推計され、2四半期連続で増加した。中部圏におけるインバウンド消費単価は2012年10-12月期から15年1-3月期にかけて平均すると約7.0万円の水準で推移していたが、15年4-6月期からは水準を落とし、平均して約5.5万円の水準で推移してきた。足下では消費単価に持ち直しの動きがみられ、15年1-3月期以来11四半期ぶりに7万円を超えた。

県別に見ると、愛知県は前年比+35.6%の8.3万円と6四半期連続で増加が続いている。静岡県は同+3.2%と3四半期連続で増加し、岐阜県は同+16.3%の2.6万円と9四半期ぶりに増加に転じた。また、福井県は同+37.2%の4.3万円と3四半期ぶりに増加した。一方、三重県は同-38.8%の2.9万円と2四半期ぶりに減少した（図表8）。もっとも、県別の消費単価はサンプル要因によって大きくぶれる可能性があり、特にサンプル数が少ない県（三重県、福井県など）の数字を見る際には注意が必要である。

中部圏において最も訪日外国人の数が多い愛知県では、2015年7-9月期から消費単価の下落が続いていたが、16年7-9月期から上昇に転じ、足下では緩やかに持ち直している。

宿泊旅行統計の県別の外国人延べ宿泊者数について見ると、直近の17年10月は中部5県は前年比+26.3%と3ヵ月連続で増加している。特に愛知県では7月（同+17.3%）から10月（同+40.7%）と4ヵ月連続で二桁増となっている。愛知県の消費単価の持ち直しは、外国人延べ宿泊者数の増加が寄与していると考えられる（図表9）。

図表7. 一人あたりインバウンド消費額の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。

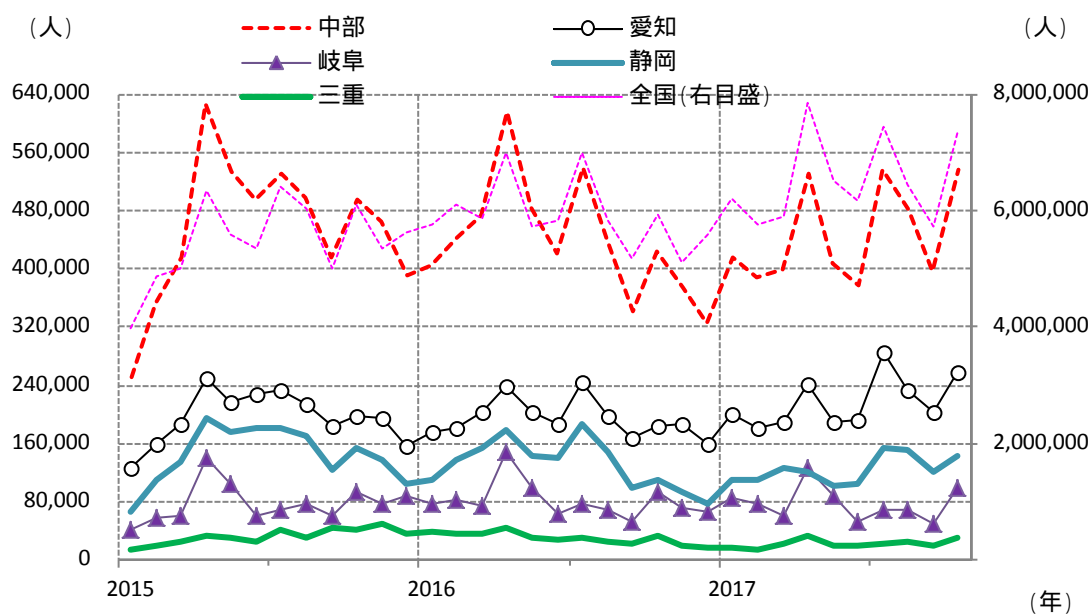
<sup>3</sup> 地域別消費単価は、パッケージツアーに含まれる国内収入分を加味したMURCの推計値であり、観光庁「外国人消費動向調査」の消費単価とは異なる。

図表 8. 一人あたりインバウンド消費額の動向 (地区・県別)

(単位)	2016年		2017年							
	10-12月期		1-3月期		4-6月期		7-9月期		10-12月期	
	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)
愛知県	6.2	22.6	5.4	6.1	6.1	9.4	6.1	2.0	8.3	35.6
岐阜県	2.2	-1.3	3.0	-0.8	1.7	-44.2	2.9	-11.0	2.6	16.3
三重県	4.8	50.9	1.8	-20.2	3.8	-13.5	6.6	72.6	2.9	-38.8
東海3県		21.2		4.5		-1.2		4.9		33.5
静岡県	3.7	5.7	2.8	-21.3	3.7	3.0	3.7	18.1	3.8	3.2
福井県	3.1	-48.6	6.0	24.5	2.3	-68.1	6.0	-41.2	4.3	37.2
中部5県	5.8	12.9	5.4	-0.7	5.6	-1.3	6.2	9.2	7.2	24.6
富山県	1.9	2.0	1.9	-66.9	1.7	3.8	3.2	-18.0	2.4	29.4
石川県	3.5	30.7	3.9	56.2	2.6	-17.0	4.1	-2.3	2.9	-18.8
長野県	3.3	-10.6	10.0	-15.8	2.1	-27.2	4.8	68.6	3.6	10.1
滋賀県	3.7	68.2	1.2	-59.4	1.7	-21.2	4.4	170.0	2.1	-42.3
昇龍道9県		13.8		-3.2		-7.2		12.5		19.6
関東地区	13.0	-24.8	12.8	-21.9	13.9	-1.3	15.9	23.7	14.5	11.5
関西地区	9.5	21.2	9.7	29.5	9.4	6.3	9.3	-1.8	9.9	4.3
全国	14.7	-12.2	14.8	-8.5	14.9	-6.7	16.5	6.6	15.2	3.4

(注) 東海3県、昇龍道9県の前年比はインバウンド消費額を当該地域内の各県の延べ人数の単純合計値で割った値をもとに算出。

図表 9. 外国人延べ宿泊者数の推移

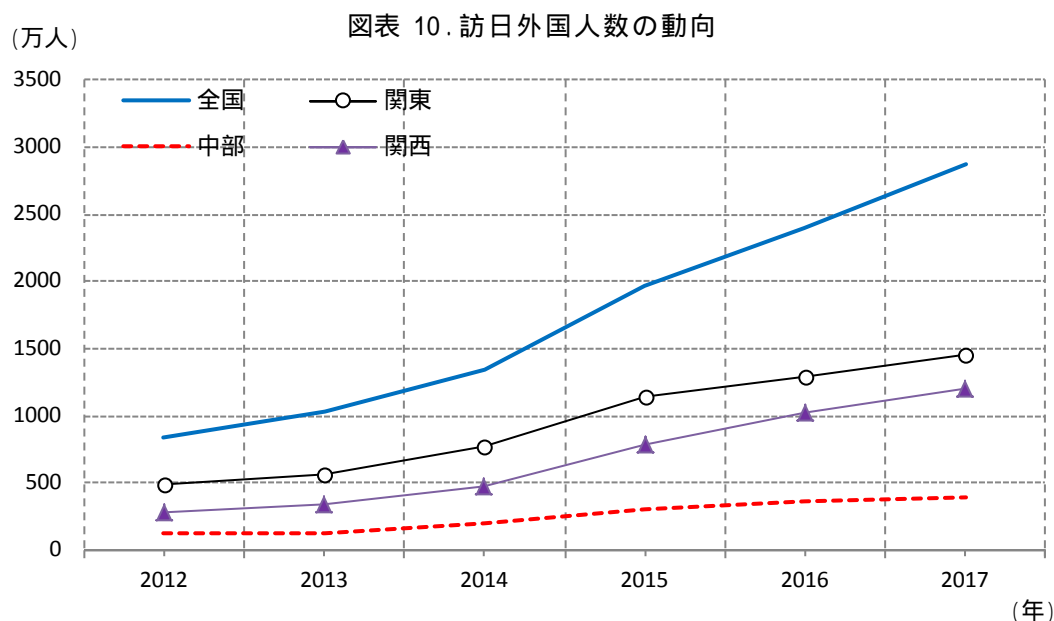


(出所) 観光庁「宿泊旅行統計」

## 2. 2017年の中部圏のインバウンド消費（暦年の動き<sup>4</sup>）

### （1）訪日外国人数の動向

2017年に中部圏を訪れた外国人数は392万人と推計され、暦年の実績として過去最高となった。前年比伸び率は+8.0%と、前年（同+23.3%）に比べて伸びが鈍化しているものの、増加が続いている。もっとも、全国（同+19.3%）や関東（同+13.3%）、関西（同+17.8%）に比べると伸び率は小幅にとどまっている。



（出所）日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表 11. 訪日外国人数の動向（地区・県別）

	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)
愛知県	87.7	11.4	122.8	40.1	194.1	58.1	228.3	17.6	255.4	11.9
岐阜県	27.0	39.3	34.3	27.2	50.1	45.8	68.4	36.7	71.4	4.4
三重県	10.0	33.0	8.9	-10.9	10.4	16.2	18.0	73.0	17.3	-3.5
東海3県		18.1		33.2		53.3		23.6		9.4
静岡県	22.4	-17.1	59.5	165.9	106.1	78.3	130.3	22.8	134.6	3.4
福井県	2.0	6.1	2.9	48.0	2.6	-10.9	4.3	66.7	4.7	9.4
中部5県	125	7.1	198	57.9	294	49.1	363	23.3	392	8.0
富山県	12.3	54.1	17.1	39.1	27.7	61.6	27.2	-1.6	30.2	10.9
石川県	16.5	60.4	20.4	24.0	37.6	84.1	48.3	28.4	55.2	14.3
長野県	32.8	31.4	38.2	16.5	63.9	67.0	67.7	6.0	80.6	19.0
滋賀県	7.2	70.9	10.1	40.3	12.9	28.0	14.8	14.7	18.1	21.9
昇龍道9県		18.1		46.2		54.0		19.4		10.5
関東地区	557	12.6	768	38.0	1,140	48.3	1,287	12.9	1,457	13.3
関西地区	345	26.3	479	38.9	790	64.8	1,024	29.7	1,207	17.8
全国	1,036	24.0	1,341	29.4	1,974	47.1	2,404	21.8	2,869	19.3

（注）東海3県、昇龍道9県の前年比は各県の延べ人数の単純合計値をもとに算出。

<sup>4</sup> 全国の2017年のインバウンド消費額の確報値については、観光庁が3月末頃に確報値として、別途、公表する予定である。本稿では、2017年の四半期値を合計した速報ベースでの地域別インバウンド消費の動向を推計する。



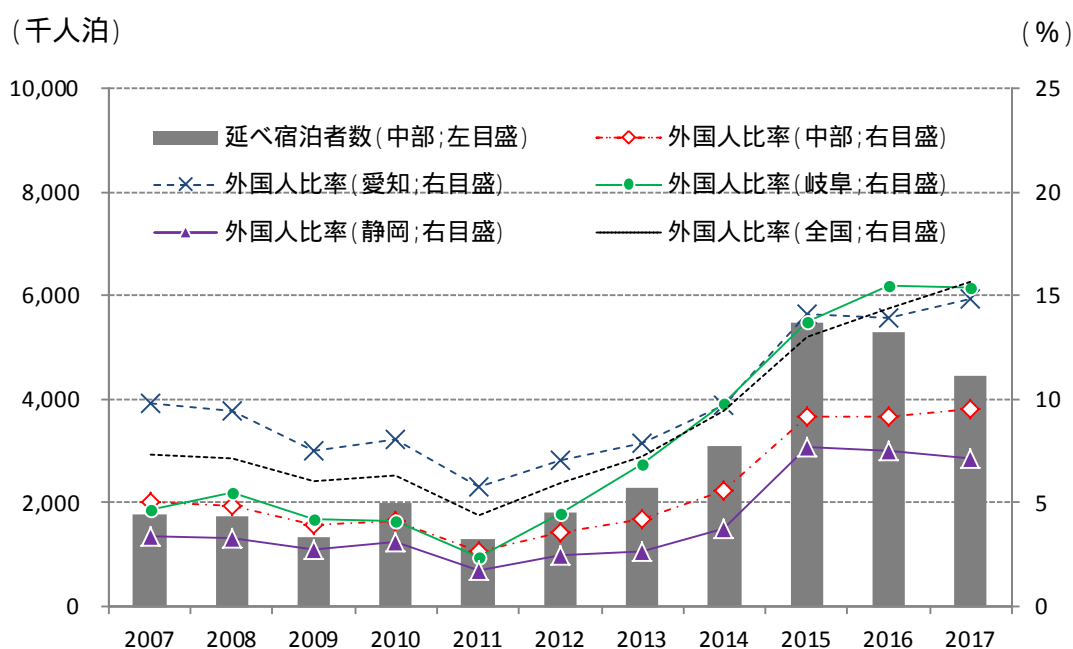
県別に見ると、愛知県は前年比+11.9%の255.4万人と暦年で初めて250万人を突破した。静岡県は同+3.4%の134.6万人、岐阜県は同+4.4%の71.4万人、福井県は同+9.4%の4.7万人とそれぞれ増加した。一方、三重県は同-3.5%の17.3万人と減少した。もっとも16年は伊勢志摩サミットが開催されたこともあり、前年比+73.0%の18.0万人と大幅に増え、その1年前の14年以前の水準と比べると増加傾向にあるといえる。中部5県に富山県、石川県、長野県、滋賀県の4県を加えた昇龍道9県で見た場合も、15年から16年にかけて伸び率が鈍化したものの、二桁台の伸びを続けている(図表11)。

宿泊者数を見ると、中部圏における外国人の延べ宿泊者は15年に急増し、16年は前年比-3.3%と一旦減少したが、17年は1-10月期で比較すると同+2.7%と前年を上回るペースで推移している。延べ宿泊者数に占める外国人の割合(外国人比率)を見ると、愛知県はこれまで全国を上回って推移してきたが、足元では全国をわずかに下回る水準となっている。岐阜県は2012年までは全国を下回って推移してきたが、2013年には全国の水準に肩を並べ、2014年以降は全国を上回る水準で比率を高め、足元では全国とほぼ同水準となっている。静岡県は日本人の延べ宿泊者数が多く、相対的に外国人比率は低めで中部圏平均を下回っており、15年以降は外国人比率が若干低下している(図表12)。

一方、訪日目的別に見た場合、観光・レジャー目的で訪れた外国人の割合が、2013年以降全国的に高まっている。従来からビジネス目的での来訪が多いと言われている愛知県を含む中部圏は2013年前半頃までは、観光・レジャー目的で訪れる外国人の割合は50%に満たなかったが、2013年第4四半期以降はその割合を次第に高め、全国の水準を上回る比率で推移してきた後、足元では全国と同程度の比率となっている(図表13)。

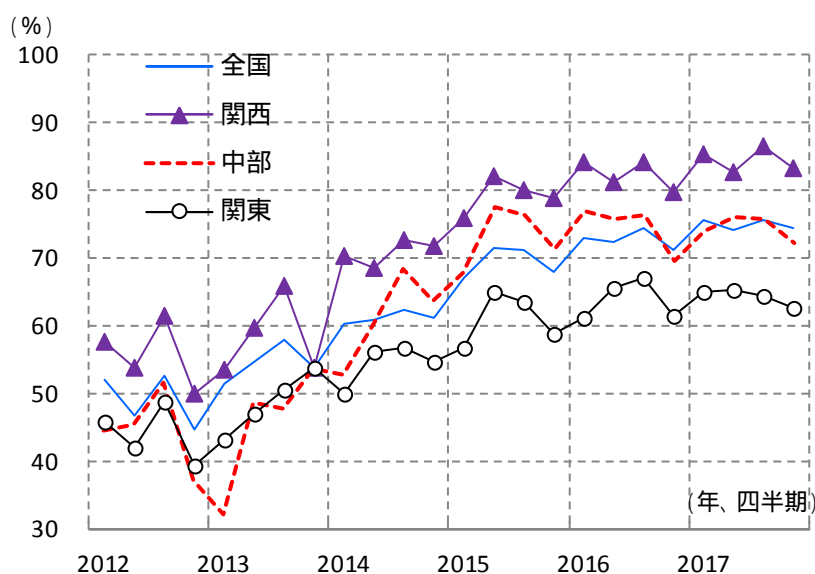
県別に特徴を見ると、岐阜県は観光・レジャー目的での来訪割合が中部圏の中では群を抜いてその割合が高く、その後も比率を高め、2017年には88.0%に達している。また、愛知県と静岡県では2013年までは50%を下回る水準であったが、2014年以降は割合を高め、2017年においては、愛知県が72.0%と7割を超え、静岡県は79.7%と全国の水準を上回っている(図表14)。

図表12. 延べ宿泊者数に占める外国人比率



(注)2017年は1-10月期の延べ宿泊者数・外国人比率  
 (出所)観光庁「宿泊旅行統計」

図表 13. 観光目的で訪れる外国人数の割合



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国はJNTO公表値。

図表 14. 観光目的で訪れる外国人の数・割合

(単位)	2013年 暦年		2014年 暦年		2015年 暦年		2016年 暦年		2017年 暦年	
	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)	実数 (万人)	前年比 (%)
愛知県 〔割合〕	39.1 〔44.6%〕	11.0	74.6 〔60.7%〕	90.6	141.6 〔73.0%〕	90.0	166.2 〔72.8%〕	17.2	183.9 〔72.0%〕	17.2
岐阜県 〔割合〕	20.8 〔77.0%〕	54.2	27.2 〔79.2%〕	30.8	43.8 〔87.4%〕	61.0	60.1 〔87.8%〕	38.2	62.8 〔88.0%〕	38.2
三重県 〔割合〕	3.5 〔34.5%〕	52.7	4.5 〔50.4%〕	30.1	6.1 〔58.4%〕	34.8	11.5 〔64.0%〕	90.1	10.2 〔59.0%〕	90.1
静岡県 〔割合〕	9.8 〔43.7%〕	-11.7	39.0 〔65.6%〕	299.4	81.9 〔77.3%〕	110.0	100.3 〔77.0%〕	22.0	107.3 〔79.7%〕	22.0
福井県 〔割合〕	0.7 〔37.0%〕	11.6	1.3 〔44.2%〕	76.7	1.1 〔42.7%〕	-14.1	2.7 〔62.9%〕	147.7	3.2 〔67.2%〕	147.7
中部 〔割合〕	57.3 〔45.8%〕	8.4	122.7 〔62.1%〕	114.2	217.8 〔74.0%〕	77.5	271.6 〔74.8%〕	24.5	291.8 〔74.4%〕	24.5
近畿 〔割合〕	209.7 〔60.8%〕	37.7	340.1 〔71.0%〕	62.2	628.0 〔79.5%〕	84.6	843.7 〔82.4%〕	34.0	1,017.3 〔84.3%〕	34.0
関東 〔割合〕	261.1 〔46.9%〕	19.6	420.1 〔54.7%〕	60.9	699.3 〔61.4%〕	66.5	823.0 〔64.0%〕	17.5	938.1 〔64.4%〕	17.5
全国 〔構成比〕	566.0 〔54.6%〕	38.1	821.5 〔61.2%〕	45.1	1,371.7 〔69.5%〕	67.0	1,748.0 〔72.7%〕	27.4	2,149.6 〔74.9%〕	27.4

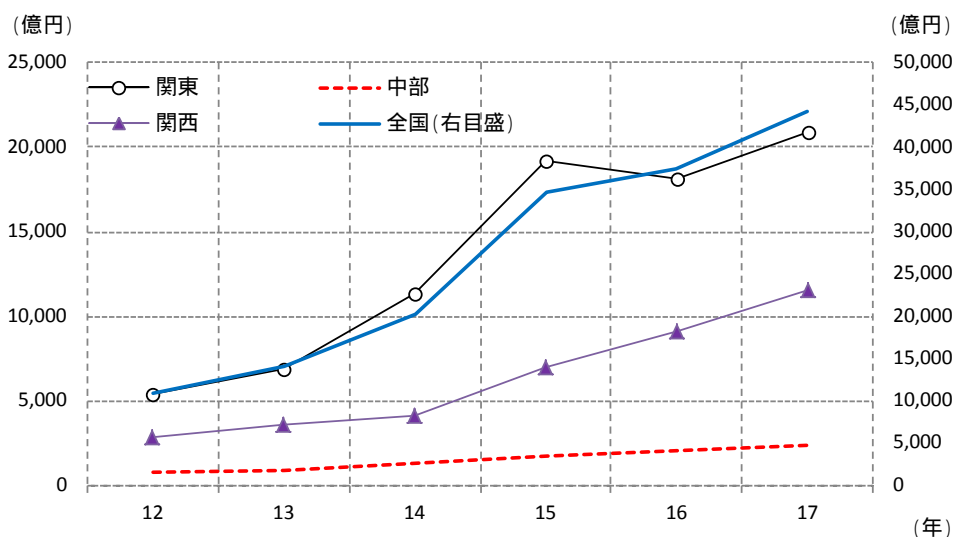
## (2) インバウンド消費額の動向

2017年の全国のインバウンド消費額の伸び率は前年比で+17.8%と大幅に鈍化した昨年に比べて持ち直した。中部圏について見ると、インバウンド消費額は同+17.3%の2,390億円と推計され、暦年として過去最高を記録した。二桁台の伸びを維持しており、中部圏の伸び率は関西(同+26.8%)に比べると低いものの、関東(同+15.6%)を上回っている。

県別に見ると、愛知県は前年比+27.5%の1,649.2億円、静岡県は同+5.8%の475.7億円とそれぞれ増加を続けている。一方、岐阜県は同-11.7%の173.2億円と4年ぶりに減少し、三重県は同-2.5%の68.7億円と3年ぶりに減少、福井県は同-14.7%の23.4億円と2年ぶりに減少した。

中部圏では訪日外国人数の伸びに伴って、消費額も増加している。特に前述のとおり、中部圏においても観光・レジャー目的で訪れる外国人の比率が高まっており、これに伴ってインバウンド消費額も堅調に増加している。

図表 15. インバウンド消費額の動向



(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。全国は観光庁公表値。

図表 16. インバウンド消費額の動向

(単位)	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)	実数 (億円)	前年比 (%)
愛知県	633.6	19.1	829.5	30.9	1,116.7	34.6	1,294.0	15.9	1,649.2	27.5
岐阜県	64.4	-5.5	100.4	55.9	160.9	60.2	196.2	22.0	173.2	-11.7
三重県	55.2	70.1	37.4	-32.2	49.6	32.6	70.5	42.1	68.7	-2.5
東海3県	753	19.1	967	28.4	1,327	37.2	1,561	17.6	1,891	21.2
静岡県	169.3	34.8	333.7	97.1	411.9	23.4	449.7	9.2	475.7	5.8
福井県	8.8	-13.1	26.1	197.5	16.6	-36.2	27.4	64.7	23.4	-14.7
中部5県	931	21.2	1,327	42.5	1,756	32.3	2,038	16.1	2,390	17.3
富山県	70.6	189.7	101.4	43.6	76.2	-24.9	62.2	-18.4	65.1	4.8
石川県	64.6	77.9	55.2	-14.5	108.7	97.0	158.5	45.8	177.1	11.7
長野県	221.7	42.2	184.4	-16.8	364.3	97.5	370.5	1.7	432.1	16.6
滋賀県	42.6	114.9	33.0	-22.5	47.9	45.2	39.2	-18.2	38.4	-2.0
昇龍道9県	1,260	32.5	1,600	27.8	2,353	38.3	2,606	13.4	3,038	16.3
関東地区	6,923	28.3	11,380	64.4	19,172	68.5	18,085	-5.7	20,902	15.6
関西地区	3,637	29.4	4,138	13.8	6,972	68.5	9,133	31.0	11,584	26.8
全国	14,167	30.6	20,278	43.1	34,771	71.5	37,476	7.8	44,161	17.8

### (3) 一人あたりインバウンド消費額の動向

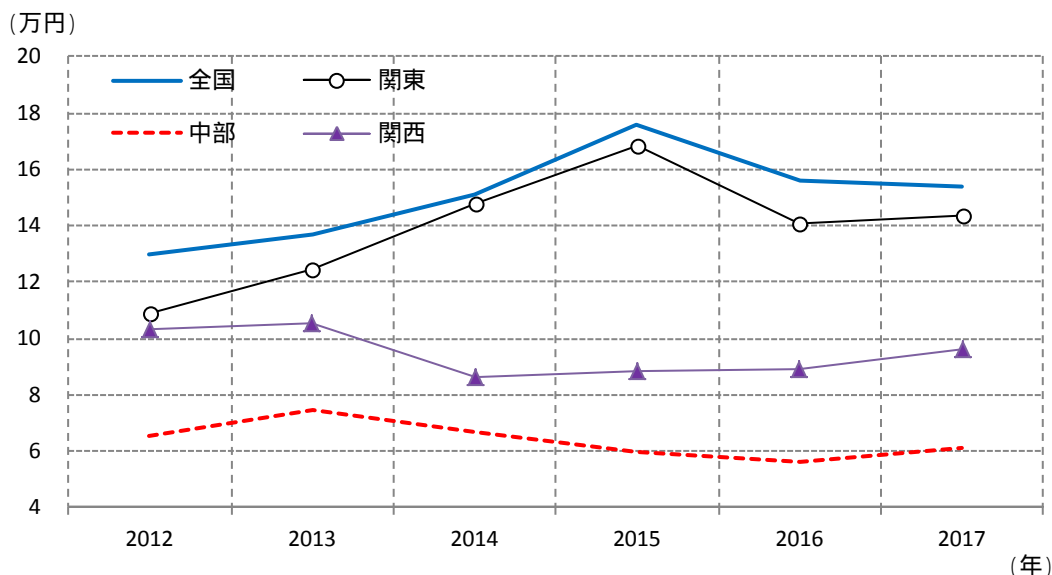
インバウンド消費額を訪日外国人数で割った一人あたりインバウンド消費額（消費単価）について見ると、全国では、前年比 - 1.3%と16年に続き減少したが、中部圏は同 + 8.6%の6.1万円と2013年をピークに減少基調で推移していたのが4年ぶりに増加に転じた。

県別に見ると、愛知県は前年比 + 13.9%の6.5万円、静岡県は同 + 2.3%の3.5万円とそれぞれ4年ぶりに増加した。また、三重県は同 + 1.0%の4.0万円と2ヶ月ぶりに増加した。一方、岐阜県は同 - 15.4%の2.4万円と2年連続で減少し、福井県は同 - 22.0%の4.9万円と3年連続で減少した（図表18）。

訪日外国人の平均泊数を見ると、中部圏を訪れる外国人は関東に比べ平均泊数が短い傾向が見られる（図表19）。また、各ブロック内の複数の都府県を周遊した割合を示す域内周遊比率を見ると、関東や関西の域内周遊比率が1.8以上となっているのに対し、中部圏については1.2程度と低く、中部圏内で複数県を跨いで周遊する訪日外国人は少ないことがうかがえる（図表20）。

このような結果から、中部圏内での宿泊や周遊は関東や関西に比べると限定的で、自ずと滞在中の消費額も少なくなる傾向にあると考えられる。中部圏におけるインバウンド消費を拡大させるためには、当地域の各地に点在する多様な観光資源を結びつけて渡航目的地としての魅力を訴求して誘客を図ることが第一に求められる。さらに、当地域内での宿泊や周遊を促して、滞在期間を延ばしていくことが肝要であろう。

図表 17. 一人あたりインバウンド消費額の動向



(注) インバウンド消費額を訪日外国人数で割ることで求めているため、公表値と異なる。

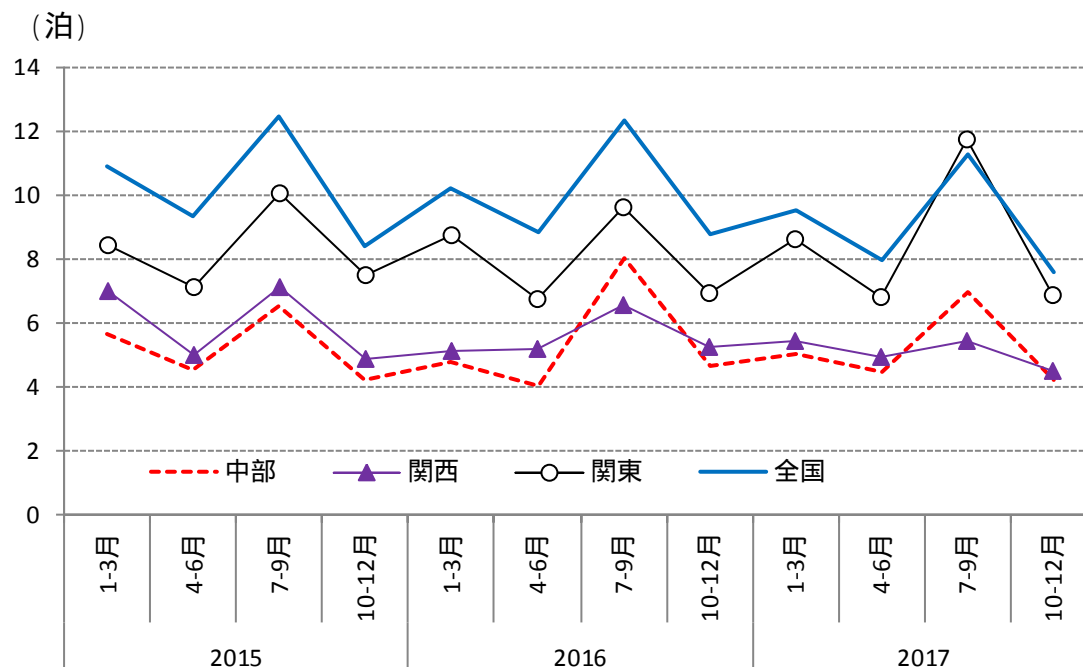
(出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数・出国日本人数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとにMURC推計。

図表 18. 一人あたりインバウンド消費額の動向

(単位)	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)	実数 (万円)	前年比 (%)
愛知県	7.2	6.9	6.8	-6.5	5.8	-14.8	5.7	-1.5	6.5	13.9
岐阜県	2.4	-32.2	2.9	22.5	3.2	9.9	2.9	-10.8	2.4	-15.4
三重県	5.5	27.9	4.2	-24.0	4.8	14.1	3.9	-17.8	4.0	1.0
東海3県		0.9		-3.6		-10.5		-4.9		10.8
静岡県	7.6	62.6	5.6	-25.9	3.9	-30.8	3.5	-11.1	3.5	2.3
福井県	4.5	-18.1	9.0	101.1	6.4	-28.4	6.3	-1.2	4.9	-22.0
中部5県	7.4	13.2	6.7	-9.8	6.0	-11.2	5.6	-5.9	6.1	8.6
富山県	5.7	88.0	5.9	3.2	2.8	-53.5	2.3	-17.0	2.2	-5.5
石川県	3.9	10.9	2.7	-31.1	2.9	7.0	3.3	13.6	3.2	-2.2
長野県	6.8	8.2	4.8	-28.6	5.7	18.3	5.5	-4.1	5.4	-2.0
滋賀県	5.9	25.8	3.3	-44.8	3.7	13.4	2.6	-28.7	2.1	-19.6
昇龍道9県		12.2		-12.5		-10.2		-5.0		5.2
関東地区	12.4	14.0	14.8	19.2	16.8	13.6	14.1	-16.4	14.3	2.0
関西地区	10.5	2.4	8.6	-18.1	8.8	2.3	8.9	1.0	9.6	7.6
全国	13.7	5.3	15.1	10.6	17.6	16.5	15.6	-11.5	15.4	-1.3

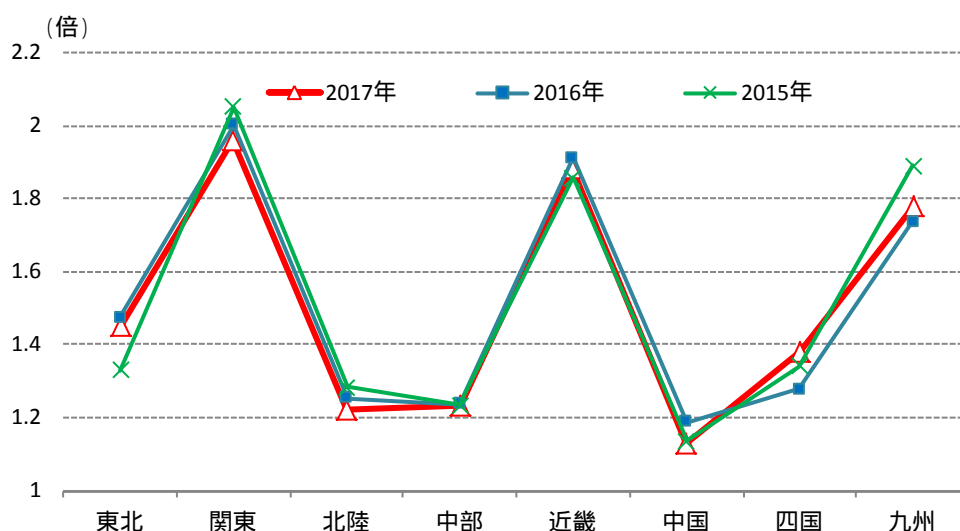
(注) 東海3県、昇龍道9県の前年比はインバウンド消費額を当該地域内の各県の延べ人数の単純合計値で割った値をもとに算出。

図表 19. 訪日外国人の平均泊数



(出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

図表 20. 域内周遊比率



(注) 地域内周遊比率は、当該地域内の各都道府県を訪れた訪日外国人数の合計を、当該地域を訪れた訪日外国人数で割ったもの。当該地域を訪れた訪日外国人が当該地域内の都道府県を1人あたりいくつ訪れているかを表す。

(出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局(JNTO)

#### (参考文献)

- ・ 藤田隼平 (2016) 「2016 / 2017 年インバウンド見通し」三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング調査レポート
- ・ 藤田隼平、塚田裕昭、杉本宗之 (2015) 「中部地域におけるインバウンド消費の現状と今後の見通し」三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング調査レポート

#### - ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ & コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。